株式会社ファーマフーズ

第21期　年次報告書

平成29年8月1日から平成30年7月31日まで

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第21期（平成29年8月1日から平成30年7月31日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成30年10月
代表取締役社長　金　武祚

事業の概況

当社グループは「医薬」（Pharmaceuticals）と「食」（Foods）の融合「ファーマフーズ」（Pharma Foods）」を実現するため、「Bio Business Triangle」をコンセプトに、「機能性素材（Bio seeds）」「バイオメディカル（Bio medical）」「通信販売（Bio value）」の3事業を主要事業としております。

バイオメディカル事業では、新規抗体医薬としての「関節リウマチプロジェクト（標的分子：PAD4）」、「悪性腫瘍プロジェクト（標的分子：FSTL1）」の医薬品開発、更には卵黄由来の骨形成ペプチド「リプロタイト」による「骨形成不全」に用いる医薬品開発を目指す「骨形成プロジェクト」に注力して参りました。特に「関節リウマチプロジェクト」では、当社の抗体作製技術を用いて創出した抗PAD4抗体につきまして、日本における特許（「新規抗PAD4抗体」特許第6369922号）を取得いたしました。今回の特許取得により、抗PAD4抗体に関する当社の知的財産権が強化され、現在進行中の製薬企業との技術導出の提携交渉が大きく進展して、早期での契約締結を想定しております。

機能性素材事業については、主力商品の売上が国内、海外ともに順調に推移したことを受け、大幅な増収、増益を達成しております。国内事業においては、リラックス成分である「GABA（ギャバ）」を採用した機能性表示食品の販売の増加により、売上は堅調に推移しています。海外事業においては、「GABA」について北米及び中国とも引き続き注力しているほか、「ボーンペップ」は中国においても堅調に推移しており、前期比4.6倍の売上を達成いたしました。

研究開発面では、「GABA」について、ストレスに対する新機能解明とその応用について評価され、日本最大規模の学会である日本農芸化学会において、「農芸化学技術賞」を受賞しました。当社の研究開発力と新たな市場を創造するマーケティング力が高く評価されましたので、今後一層技術開発に努力して参ります。

通信販売事業については、サプリメント、化粧品共に、効果的な広告投資を行った結果、顧客価値の拡大が想定以上に推移したことにより、大幅な増収、増益を達成しております。サプリメント及び化粧品をあわせた定期顧客件数は、当期末は97,310件（前期比83.0%増）となり、広告宣伝投資や継続率の向上の施策により、効率的に積み上げることに成功しました。さらには、「タマゴサミン」は、商品開発力が認められ、このたび「ウェルネスフードジャパンアワード2018」の金賞を受賞しました。

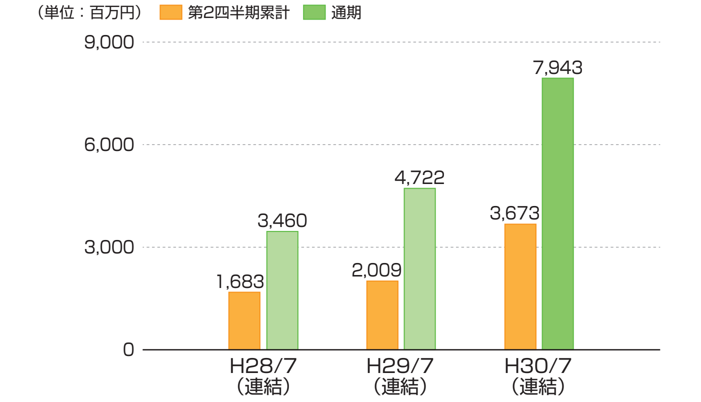
以上の結果、当連結会計年度の売上高は、7,943百万円（前期比68.2%増）、営業利益は296百万円（前期比231.4%増）、経常利益は359百万円（前期比150.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は313百万円（前期比209.6%増）となりました。

翌連結会計年度（平成31年7月期）の業績予想は、売上高10,100百万円（前期比27.2%増）、営業利益390百万円（前期比31.8%増）、経常利益430百万円（前期比19.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益320百万円（前期比2.2%増）を見込んでおります。

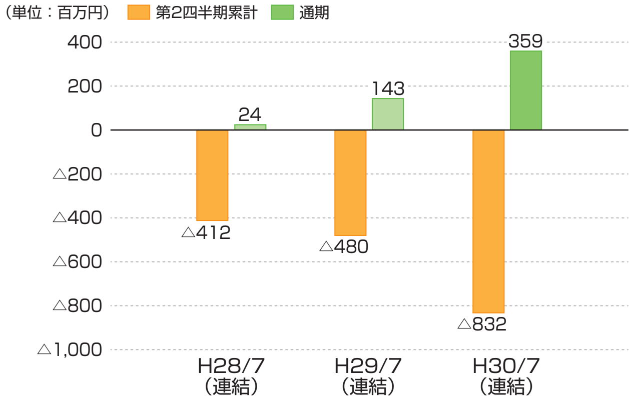
今後も変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

決算ハイライト

売　上　高



経常損益



部門紹介

機能性素材（B to B事業）
鶏卵・野菜・緑茶・乳酸菌など、私たちの身近な食品素材から生理活性物質を探求し、科学的考証に基づいた素材開発を行っています。

通信販売（B to C事業）
当社及び株式会社フューチャーラボのサプリメント、化粧品等の各製品をテレビ、ラジオ等の広告媒体を通じて販売しております。

バイオメディカル事業
創薬事業、医薬品・診断薬開発目的のための抗体受託作製、及び各素材・製品等に関して分析・効能評価試験を行っております。

連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：千円）

科　目	当　期 （平成30年7月31日現在）	前　期 （平成29年7月31日現在）
（資産の部）		
流動資産	4,729,605	4,367,279
固定資産	1,600,766	1,476,595
有形固定資産	734,321	718,322
無形固定資産	269,188	285,384
投資その他の資産	597,256	472,889
資産合計	6,330,371	5,843,875
（負債の部）		
流動負債	1,425,754	1,085,672
固定負債	994,456	1,165,716
負債合計	2,420,210	2,251,389
（純資産の部）		
株主資本	3,873,733	3,559,144
資本金	2,031,278	2,031,278
資本剰余金	1,882,910	1,881,982
利益剰余金	△ 40,455	△ 354,117
その他の包括利益累計額	15,192	18,247
新株予約権	4,032	8,217
非支配株主持分	17,202	6,877
純資産合計	3,910,160	3,592,486
負債・純資産合計	6,330,371	5,843,875

連結損益計算書

（単位：千円）

科　目	当　期 （平成29年8月1日から平成30年7月31日まで）	前　期 （平成28年8月1日から平成29年7月31日まで）
売上高	7,943,262	4,722,596
売上原価	1,591,887	1,006,208
売上総利益	6,351,375	3,716,388
販売費及び一般管理費	6,054,946	3,626,951
営業利益	296,428	89,436
営業外収益	85,728	70,361
営業外費用	22,585	15,941
経常利益	359,571	143,857
特別利益	23,922	23,995
特別損失	69,843	43,980
税金等調整前当期純利益	313,650	123,871
法人税等	△ 8,864	18,582
当期純利益	322,514	105,288
非支配株主に帰属する当期純利益	8,852	3,978
親会社株主に帰属する当期純利益	313,661	101,310

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

科　目	当　期 （平成29年8月1日から平成30年7月31日まで）	前　期 （平成28年8月1日から平成29年7月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	415,543	233,853
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 172,063	△ 382,459
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 182,415	903,958
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2,017	4,495
現金及び現金同等物の増加額	59,047	759,847
現金及び現金同等物の期首残高	2,861,102	2,101,254
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	14,199	－
現金及び現金同等物の期末残高	2,934,348	2,861,102

株主の状況

株式情報（平成30年7月31日現在）

- 発行可能株式総数　68,800,000株
- 発行済株式の総数　29,034,200株
- 株主数　9,357名
- 大株主の状況

株主名	持株数	持株比率
金　武祚	3,632,900株	12.51%
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) （常任代理人　株式会社三菱UFJ銀行）	1,105,048株	3.80%
株式会社SBI証券	831,522株	2.86%
日本証券金融株式会社	800,700株	2.75%
江崎グリコ株式会社	732,000株	2.52%
益田和二行	712,900株	2.45%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	693,300株	2.38%
鈴木千尋	649,100株	2.23%
金英一	649,000株	2.23%
楽天証券株式会社	637,900株	2.19%

株主メモ

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
期末配当金受領株主確定日	毎年7月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年1月31日
定時株主総会	毎年10月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120−094−777（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により掲載いたします。

（ご注意）
1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り次ぎいたします。

会社概要

会社概要

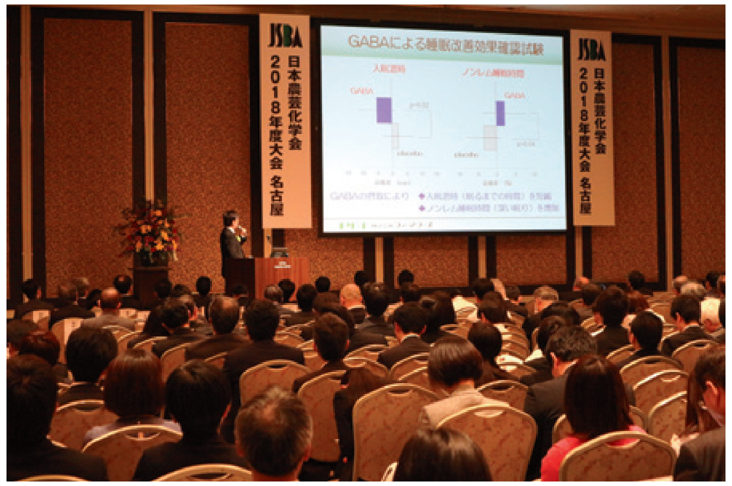
- 社名　株式会社ファーマフーズ
- 本社　〒615-8245　京都市西京区御陵大原1番地49
- 電話　075-394-8600
- 設立　平成9年9月12日
- 資本金　20億3,127万円（平成30年7月31日現在）
- 従業員数（連結）　117名（平成30年7月31日現在）
- 主要な事業内容　機能性食品素材の開発・販売、通信販売、バイオメディカル事業

役員（平成30年7月31日現在）

代表取締役社長	金　武祚
常務取締役	益田　和二行
常務取締役	堀江　典子
取締役	青笹　正義
社外取締役	佐村　信哉
常勤監査役	伊井野　貴史
社外監査役	辻本　真也
社外監査役	八田　信男

TOPICS GABA研究の功績 農芸化学技術賞 受賞

当社が取り組んできたGABA（ギャバ：Gamma Amino Butyric Acid）に関する研究が、2018年度「農芸化学技術賞」を受賞しました。
長年にわたり一貫して研究を続けてきたテーマである「GABA」について、
① GABAを高生産する乳酸菌の発見及びその大量生産技術基盤の確立
② GABAが持つ抗ストレス・リラックス・睡眠などの生理機能研究
③ 研究結果に基づいて市場開拓することによりGABAの出荷量の世界一実現したこと
の3点が高く評価されたものです。



受賞記念講演

農芸化学技術賞とは？

「農芸化学技術賞」は、化学・生物・バイオ等の農芸化学分野において注目すべき研究・技術的業績をあげ、かつその業績が実用的価値を有する場合に授与されます。

日本農芸化学会は、1924年に設立された学術団体で、農芸化学やバイオサイエンス・バイオテクノロジーの研究者や研究機関などで組織された、10,000名以上の会員数を持つ日本最大級の学会のひとつです。

3月15日に行われた農芸化学技術賞の授賞式では、当社の4名の受賞者を代表して、堀江健二による記念講演「GABAの生産技術の確立と高機能食品の市場開発」が行われ、多くのご来場の皆様に当社のこれまでの取り組みをご紹介することができました。

ファーマフーズがマーケットを切り開いてきたGABAは、2015年から開始した「機能性表示食品制度」において、受理された食品の中で受理件数が第2位となっており、今ではお菓子や飲料、加工食品など多くの食品に使用されております。

**機能性表示食品
素材別受理件数ランキング**

順位	機能性素材	受理件数
1	難消化性デキストリン	196
2	GABA	173
3	DHA・EPA	125
4	ビフィズス菌	84
5	ルテイン・ゼアキサンチン	74
6	イチョウ葉（フラボノイド配糖体、テルペンラクトン）	72
7	ヒアルロン酸Na	65
8	葛の花由来イソフラボン	59
9	グルコサミン塩酸塩	54
10	L-テアニン	48

当社調べ　平成30年9月14日現在

受賞したファーマフーズの研究員

GABAチョコレート

TOPICS 金賞 受賞 ～ウェルネスフードジャパンアワード2018～

250万袋突破

タマゴサミン® EX

機能性食品素材「iHA®（アイハ）」配合商品「タマゴサミン® EX」が、ウェルネスフードジャパンアワード2018（会場：ウェルネスフードジャパン2018会場内（東京ビッグサイト）、期間：2018年7月25日～27日）に応募された全147商品のうち、アンチエイジング部門の最高位となる「金賞」を受賞しました。

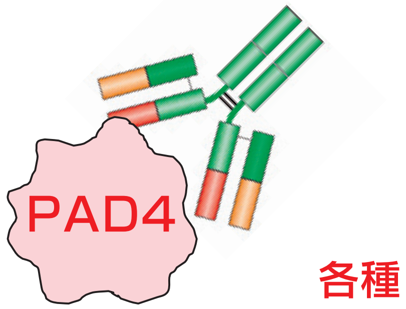
「いつまでも若々しく活動的な生活を応援するために開発された美容・アンチエイジング向けの食品・飲料」として
① 確かなエビデンスがあること
② 他にはない新しい発想の素材が使用されていること
③ 困っている人の役に立つ製品であること
④ 販売数量の著しい増加
が高く評価された結果、栄えある金賞の受賞となりました。

「タマゴサミン® EX」は、累計出荷数250万袋を突破した膝関節用サプリメントです。わずか21日間でタマゴからヒヨコが生まれることに着目し、10年の研究で見出されたタマゴ由来の成分「iHA®（アイハ）」を配合しています。当社は、今後も健康維持に役立つ素材の研究を積み重ね、他にはない商品開発を引き続き行って参ります。

表彰式

TOPICS 「新規抗PAD4抗体」特許取得

生体内の免疫細胞等が発現するPAD4（ペプチド脱イミノ酵素）は、蛋白質をシトルリン化する酵素です。シトルリン化された蛋白質は、自己免疫反応の要因となることが知られています。近年、PAD4が各種の自己免疫疾患と関連するとの論文が多数発表され、創薬ターゲットとして注目されております。



抗PAD4抗体によりPAD4を阻害

▼

自己抗原の産生抑制

▼

各種自己免疫疾患を根本から治療できる可能性

PAD4を阻害する抗体を、当社独自のニワトリ由来抗体作製技術：ALAgene® technologyを用いて創出し、関節リウマチなどの自己免疫疾患モデル動物を用いた試験で、高い有効性を示すことを確認しております。
（横浜市立大学ならびに名古屋市立大学との共同研究）